

I C T新事業創出推進会議（第4回）議事概要

1. 日時

平成26年2月26日（水）15時00分～17時00分

2. 場所

総務省11階第3特別会議室

3. 出席者

（1）構成員（敬称略）

三友座長、谷川座長代理、岩浪構成員、江田構成員（宗像代理）、岡田構成員、木谷構成員、久保田構成員、篠原構成員、島田構成員、清水構成員、関構成員、高橋構成員、千葉構成員、富田構成員、野村構成員、林構成員、藤原構成員、松本構成員、椋田構成員、森川構成員

（以上20名）

（2）総務省

上川総務副大臣、桜井総務審議官、吉田政策統括官、阪本情報通信国際戦略局長、鈴木官房総括審議官、南官房審議官、渡辺官房審議官、小笠原情報通信政策課長、田原技術政策課長、岡崎情報流通振興課長、鈴木衛星・地域放送課長

4. 議題

- （1）第3回会合における議論
- （2）構成員からのプレゼンテーション
- （3）意見交換
- （4）その他

5. 議事概要

- ① 上川副大臣から挨拶をいただいた。
- ② 清水構成員、千葉構成員からプレゼンテーションの後意見交換が行われた。主なやり

とりは以下の通り

【木谷構成員】

- 2012年のトレンドをまとめた時のキーワードにはクラウドや、ビッグデータなどがあったが、2014年にはさらにブレイクダウンしているので直接ビッグデータといった言葉が出ていない。

【清水構成員】

- 2050年頃には、世界人口は20億人ふえ、世界の経済規模は4倍となるがそれに伴い必要なエネルギー、食料、水等は2倍弱必要になってしまう。
- 目指す社会は国籍、民族、年齢、性別等の壁を越えて多様な価値観を共有し、新たな価値を創発する公平・効率なダイバーシティの世界、そして人口過密化、サイバー、自然災害などの複雑化した危険、危機からあらゆるレベルで人々の生命や暮らしを守る、セーフティの世界。この二つが大きなキーワードになるだろう。
- ICT投資がもたらす価値をどういうふうに創造するか、企画するか、ベンチャー精神を企業の中にどうやって埋め込んでいくか、その価値を短時間で検証するような、リーンスタートアップといったようなものをいかにビルトインしていくかが必要なキーワード。

【千葉構成員】

- 2012年のロンドン大会では最大1,000万人規模の観客、参加者がネットワーク、WiFi機器を利用するなど量では充足したが、2020年の東京大会ではICTの質を充実させて臨まなければならない。
- 新事業の創出のためにインターオペラビリティ、アイデアソン、ハッカソン、オープンテストベッド、バックキャストイングといった議論の手法があると思う。

【松本構成員】

- 新しいサービスを地域で展開するには、防災や減災関連を含めた地域の安心・安全をどう守るか、高齢化社会への対応や医療の支援をどのようにするか、電力システムの改革への対応をどう考えるか、4K8Kを使った地域コンテンツをどのように発信するか等、ポイント、切り口はいっぱいあるが、優先順位をつけてスピード感を持って提供することが大事。

【棕田構成員】

- 企業のICT投資は今までコスト削減が中心だったがどういうふうに攻めに転換していくかということが日本企業の国際競争力という意味で大変重要。

【野村構成員】

- 技術を事業化するために乗り越えなければならない課題の1つにエコシステムがあるので、技術のことと同時にエコシステムを作り出すために必要なものも一緒に考えなければならない。

【岩浪構成員】

- 海外勢が強いのはユーザーの支持を受けているから。ユーザーがついてこない実証実験をしても全く価値がない。ユーザーを巻き込んで社会実装に向けた実験をすべき。

【藤原構成員】

- ITビジネスの最前線には感動とか楽しさといったものがあるのではないかと。

【谷川座長代理】

- 新規事業の議論の中でも、ベンチャーがやるべき、やった方がいい事業を論ずる場合と、大企業が新規事業を求めて議論する場合とでは、だいぶ性質が違うかもしれないが、このような場では全部一緒くたになってしまっている。

【篠原構成員】

- これからはICTと何かが組み合わさって新しい価値を生み出す時代。例えば医療や

農業といった分野で新しい価値を生み出していくのがこれからのICTの役割。

【高橋構成員】

- スマートフォンの周りではスピード感のある事業創成が行われているが、海外では大企業はうまく自分たちのアセットを外に解放して、それをベンチャー企業がうまく利活用して、リーンスタートアップをしながら非常にスピード感を持ってサービスを届けており、その循環がうまくできている。

【森川構成員】

- ストーリーやエコシステムなどを考えられる人を技術屋にも作っていかなければならない。

【木谷構成員】

- 2012年のトレンドをまとめた時のキーワードにはクラウドや、ビッグデータなどがあったが、2014年にはさらにブレイクダウンしているので直接ビッグデータといった言葉が出ていない。

以上